



# 紺 碧

早稲田大学校友会 調布稲門会

題字・イラスト：会員 加藤 比呂志

調布稲門会 会報

2008.1 No. 27号

事務局 調布市下石原 3-62-1  
堀紙管轄内

Tel 042-498-0218

Fax 042-487-1154

編集責任者 香山 弘之

## 新春をことぶき

会長 河野 瑠美

あけまして おめでとうございます  
年明けの見事な青空のように皆様も晴々と、ご機嫌よく良いお年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

恒例の正月2日、3日の大学箱根駅伝では往路優勝、総合成績第2位という大きなお年玉を頂き、幸先を予感させる嬉しい新年となりました。又、2日に行われました全国大学ラグビー選手権大会においても苦しみながらも決勝進出を決め、12日には伝統の早慶戦で慶応を制し14度目の大学日本一に輝きました。皆様と共に送った応援は喚声に、「荒ぶる」の歌声になりました。

昨年10月21日(日)の早稲田大学創立125周年記念日には福田総理はじめ国内外の125大学の学長をお招きし、大学の評議員、商議員、職員等参加者総勢3,000人の記念式典が開催されました。前日の20日(土)の稲門祭と併せますと延べ5万人の校友、学生たちがキャンパスを埋め創立記念日を祝いました。

創立記念日に先立ち2007年は「全国をワセダ色に染めよう」のコンセプトの下に全国の校友会や関係者による様々なイベントが実施されました。東京三多摩支部稲門会も北部、中部、南部ブロックで「0からの風」の上映会を開催し、各々満席の盛況でした。

創立125周年に因んで企画されました「街道125\*。ウォーク」甲州街道ルートで記念日当日の起点が調布の布多天神となり早朝から幹事の方々に参加者のお世話をお願いし無事終えることが出来ました。色々なイベントに参加してくださいました皆様方へこころより御礼申し上げます。

創立記念事業募金につきましては昨年末大口寄付



をして下さいました方により、当会は目標額の65%に達することが出来ました。将来に向けて母校が国内のみならず世界においても認知される大学に発展するために必要な記念事業の実現に更なる応援をお願いします。又、既にご承知のことと存じ

ますが昨年末に大隈講堂が国の重要文化財の指定を受けました。この重要文化財になりました大隈講堂の内部壁面に皆様のお名前を是非刻んで頂きたいと思えます。募金は2008年3月31日が最終締切日となっておりますのでよろしくお願い申し上げます。

現在、世界各地において政治、経済、宗教、環境等諸々の問題が山積し、特に地球自体の健全な存続が危ぶまれております。これらの諸問題を克服するためにも教育の充実、人材の育成が最も肝要かと思われれます。母校の後輩達の力により次の125周年には健全な世界と地球になっていることを心から願っ

ております。

最後に、2008年が皆様にとりまして更によき日々

でありますようお願い申し上げます。

(写真は大隈講堂に舞い上がるハト型エコロジー風船)

## 母校創立 125 周年記念式典挙行される

幹事 石倉 毅

昨年の稲門祭は母校創立 125 周年を記念する祭典と共に 10 月 20 日(土)、21 日(日)の両日に開催され、共に好天に恵まれ計 5 万人を超える校友やその家族、友人、学生等々がメイン会場の西早稲田キャンパス他を訪れイベントやアトラクションを楽しんだ。

校友音楽祭は改装成った大隈講堂や大隈庭園での演奏のほか、キャンパスを離れ赤坂、山王、新宿、高田馬場等の特設会場でナイトライブショーも行われた。校友講演会は平成 19 年の箱根駅伝で総合 6 位入賞を果たし、翌年のシード権獲得の競走部 OB 瀬古利彦氏や国会議員の先生方のトークに会場は大いに盛りあがった。

大隈庭園では恒例の模擬店が全国支部稲門会、学生稲門会、地元商店会が出店し温かい食べ物、ビール、日本酒、ワイン、みやげ物などを求めて大変な賑わいであった。

福引抽選では全国の職域稲門会や多くの企業からご提供頂いた数々の賞品のうち、特に目玉では A 賞から D 賞までの 4 台の乗用車であった。その他、海外旅行や国内旅行、全国各地の名産品が用意されたが、我が調布稲門会に割り当てられた 90 枚(18 万円)は残念ながら完敗であった。

この祭典の挙行に際しては全国支部稲門会のご協力を得て、実行委員会には大学職員並びに首都圏支部・稲門会々員等約 400 名の方々が準備段階から携わり、当日スタッフとして前著 400 名の他に学生有志を含む約 500 名が動員された。我が調布稲門会から河野会長ほか数名が参加した。

そもそも早稲田大学が「125」に拘るのは大隈重信の「人生 125 歳説」に依るもので、今年が(早稲田大学の前身)東京専門学校開校(1882 年)以来 125 年に当たる。ちなみに本学のシンボルである大隈記念

講堂の時計塔の高さは 125 尺(約 38m)である。(ロマネスク様式を基調にゴシック様式を加味した当記念講堂は、今年度「重要文化財」に指定されたことを付け加えて置く)

2010 年 12 月には校友会創立 125 周年を迎えるが、代議員会において「新校友会」宣言がなされ、その中期計画策定が進められている。

関東近圏(銚子、水戸、JR 宇都宮、高崎、甲府、三島の各駅)を起点に大隈講堂までの各々 6 ルートで歩いてつなぐ「125 周年記念 125 キロウオーク」が、9 月 23 日を初日に 10 月 21 日をゴールとする日曜日毎に実施された。甲府駅を起点の甲州街道ルートでは「布多天神」～「大隈講堂」の約 25 キロが最終区間で当日 8 時前の出発時刻に調布稲門会もお手伝いした次第。その他資料によれば長崎～早稲田大学 1,250 キロウオークの様子が 7 号館 103 号室に展示された模様。

大学では節目の創立 125 周年を「第二の建学」と位置付け、その骨子は建学の理念である「学問の独立」、「学問の活用」、「模範国民の造就」の三つの教旨を礎に、(激動する)社会の期待・要請に対し、貢献出来る人物を育成するものである。

1999(平成 11)年に創立 125 周年記念事業が発表された。概要は既に完了した「新学生会館」(2001 年)、新「8 号館」(2005 年)、「大隈講堂改修」(2007 年)及び建設中の「大久保キャンパス新棟 63 号」、「西早稲田キャンパス新棟 C 号」(夫々仮称)で総事業費は 370 億円である。

我が調布稲門会・林 貞夫名誉会長が、校友会の発展に地域役員として尽力され、その多大な貢献に対し、「早稲田大学創立 125 周年記念校友会表彰」を顕賞された。

## ワセダに向かって125キロ ウォーク 中継点の調布でタスキ リレー

副幹事長 舞木 孝治

早稲田大学創立125周年記念行事の一環として、全国から当時の若者たちが早稲田に向かって歩いたといわれる銚子、水戸、宇都宮、高崎、甲府、三島からの6つのルートに125キロのコースを定め、1日25キロずつ5日間にわたって歩き、創立記念日の10月21日に早稲田大学にゴールするチャリティーウォークが催された。

その中の1つ甲州街道ルートで調布が最終日の10月21日、中継地として指定された。調布駅から5分程の「布多天神」の境内がリレーの中継出発場所となり、世話役として地元の調布稲門会が当たった。

調布稲門会から幹事長：堀、副幹事長：山崎、舞木、幹事：野地、石倉、会員：加藤（比）、鈴木（光）が朝7時に集合、前会場（八王子）からのウエルカムと出発式を担当した。

総勢40名程のウォーカーで、ノボリやタスキと賑やかにワセダの社に向かってスタート、調布稲門会からは、野地幹事と加藤会員がゼッケンを背に参加され、校歌と共にウォーキングの有志を送り出しました。



## 今回も福祉バザーに参加して

幹事 椎原 大典

昨年12月2日(日)、調布市社会福祉協議会主催、調布市後援の年末の風物詩である第30回福祉まつりが、午前9時30分より午後2時30分迄、5時間にわたり、たづくり会館前広場に於いて盛大に行われ、69団体が積極的に参加し、我が調布稲門会も、河野会長以下20名の幹部・役員が出席し、ボランティア活動の一環として協力参加いたしました。

当日の天候は初冬の一日で、やや小春日和の好天に恵まれ、9時30分スタートの30分前より来客が見えはじめ、終始盛況のうちに多数の出品(約千点)も短時間のうちにほぼ完売し、成功を収めることが出来ました。

特に会長以下幹部役員一同は、毎回のこととは言え、一ヶ月位前よりバザー開催のための準備、運営等についての打合せの会議を持ち、出品物を

調達し、一週間前より集配・値付け作業の準備や、当日の会場の設定、品物の搬入、搬出作業等につき、多大のご尽力をいただき、そのご苦労と努力に対し、心から感謝している次第です。

売上金は、市民の福祉向上のために、調布市福祉協議会に、13万円強を寄付させていただきました。

昨年、早稲田大学は、10月21日に、創立125周年を終了し、また戦後6人目の首相を誕生させることが出来、第2の建学として世界へ羽ばたく躍進を見せておりますが、当調布稲門会も尚一層の研鑽と努力で地域の発展のため、お互いに頑張っていきたいものであります。

皆様の暖かいご支援とご協力の程、今後ともお願い申し上げます。

## 調布稲門会創立当時の思い出・・・そして今

名誉会長 林 貞夫

調布稲門会は昭和56年10月31日清水・西原両総長をお迎えして、大学関係者・多摩地区稲門会会長等40余名と市内在住・在勤の校友140名が旧第百生命（国領）の講堂に集い華々しく発足した。



会長挨拶で、低迷している早稲田スポーツの現状を憂い、野球部を始め各部強化のため推薦入学制度の拡大を学校側に要望した。続いて両総長から、不祥事の続いた大学の改革と100周年記念行事への協力要請があり全員大きな拍手で応えた。

記念講演は、立教の長島選手に破られるまで、東京6大学野球のホームラン記録を持っていた小島町在住の呉明捷氏にお願いした。中学生の時に神宮球場のネット裏で観戦した私にとって憧れの人だった。様々な困難を克服し黄金時代の4番打者として大活躍するまでの体験談に会員も深い感銘を受けた。

懇親会は、全員が殆ど初対面だったが、「やあ君も早稲田か」とすぐに打ち解け親睦の輪が広がり会場は熱気に溢れた。そしてフィナーレの校歌斉唱では、青春の思い出と創立の喜びに目頭が熱くなった。

こうして多摩地区12番目の稲門会としてスタートしたが、結成までには3年半を要した。初めは昭和53年5月、府中校友会の松本会長が大学の要請を受け、調布稲門会設立のため会社に来訪された。同氏は立川稲門会の砂川会長と共に府立式中（現立川高校）の先輩でもあったので、ご指導をお願いしてお引き受けした。

早速当時市会議員だった吉尾氏と相談し、故富澤

慎哉・元木勇・嶋田太郎・土方貢・鶴田幸夫の各氏と準備会を作り、学校からの名簿を頼りに活動を始めたが、お互い多忙なため思うように進まなかった。市報や日刊紙でPRを行い、企業や個人に電話と訪問を続けているうちに協力者も増え、設立の気運も高まってきた。

創立時から会員増強のため、ゴルフ・テニス・囲碁将棋・麻雀・カラオケなど同好会も発足し現在に引き継がれている。

稲門会に遅れること3年半、昭和61年に調布三田会が発足した。その創立総会を契機に、毎年総会への相互出席、ゴルフ・テニスのスポーツ交流も行われている。

平成3年12月「調布福祉まつり」に三田会・稲門会が共に参加して「福祉の早慶戦」と話題になり、チャリティバザーで売上を競った。これが他大学を刺激し、明治の駿台会、中央の白門会が参加、今年は学習院の桜友会も加わり、地域福祉の向上に貢献するようになった。元福祉協議会会長としては喜ばしい限りである。

本年10月20日、創立125周年のホームカミングデイ式典で、全国稲門会の役員60名と共に白井校友会会長（総長）より表彰状を授与された。



創立以来18年間ご支援いただいた会員の皆様のお蔭と改めて御礼を申し上げ、合わせて本会の更なる発展をお祈りいたします。

## 紺碧の広場 会員エッセイ

### 吉野秀雄の深大寺の歌

中野 完二 (昭35 文)

日本ペンクラブ会員

深大寺夕さり菜り小流れに葱洗ふ人の葱白く目立つ

これは昭和を代表する歌人、吉野秀雄(1902~1967)の歌集『晴陰集』(第五歌集で自ら編んだ最後の歌集。昭和33年上梓)に収められた昭和30年の作。

続いて

洗ふ葱を二本小銭に君買ひてかじれかじれと強言に言ふ

が詠まれている。「萩山の占魚居を訪ふ」と詞書があるから、東村山市萩山町の俳人、上村点魚さんを訪ねたあと、占魚さんと、平林寺から深大寺へと、武蔵野を歩いたときの作のようだ。上村点魚「君」との、葱をめぐるやりとりがおもしろい。

白鳳金銅仏

釈迦仏の衣の波の湛へよりみ寺の泉湧き走るらし

は、昭和34年「武蔵野深大寺春昼」5首の内の1首。『含紅集』所収。

深大寺が、泉湧き、水の流れが生活を潤している由緒ある寺であり、土地であることを歌人は、ごく自然に、みごとに歌っている。

「深大寺夕さり来り……」の歌は知らなかった。昨年7月7日、鎌倉、瑞泉寺で開かれた第40回吉野秀雄 艸心忌の講師をつとめてくださった歌人で、第40回 遼空賞受賞の、現代歌人協会理事の小島ゆかり先生(早大文学部卒)の講演「葱の大尽——吉野秀雄の魅力」で教えられた。

小島先生は、お住まいの西東京市から調布の「たづくり」まで短歌を講じに来てくださっていて、私が毎週大泉学園まで太極拳を指導に行っていることを興味深く思われたようで、「たしかに深大寺も、調布も“小流れ”が多いですね」とおっしゃっていた。

私は、父が秀雄先生と親しくさせていただいたご縁で、艸心忌世話人会の末席に加わっていたが、一昨年夏、世話人代表を引き受けざるをえなくなり、第40回艸心忌を迎えたのだった。

今年も7月5日、第41回艸心忌が瑞泉寺で、栗木京子先生を講師に開かれる。

### マツタケ食べ放題・・・ブータン旅行記

荒木 淳一朗(昭和37 法)

★

この秋、チベット仏教の国ブータンを訪れました。沖縄と同じ緯度、ヒマラヤ山脈の東端、北は標高7,000mの雪山がチベットと接し、南は標高100mでインドと国境を成しています。面積はほぼ九州と同じ、人口は70万人強。政治は、27歳の現国王が王位継承され、08年に戴冠式と初めての総選挙が予定されているとか。

最近までは鎖国に近い政策。直行便は無く、バンコク、カルカッタからの一日各一便だけ。

ブータン唯一のパロ空港は、山間の盆地にあり、スリル満点に、山間をかすめて降りる。

山の中腹まで続く棚田一面には、黄金色の稲穂、農家の屋根には真っ赤な干したトウガラシ。民族衣

装を身にまとった人々、独特の建築様式の寺院や家々。

★

遙か彼方に、聖なる山カンチェンジュンガを仰ぎ見ながら、3,000mの峠にも天に向かって林立する経文旗ダルシン(大相撲の幟みたいで、赤青白の生地に経文が印刷されている)は、人の願いを風に乗せて天に届けてくれる・・・と言う。

鉄道は無く、東西縦貫道とその支線だけ。首都ティンブーにすら高層建築はなく、信号もない。

地方の主要都市と言っても、日本で言えばまるでローカル線のわびしい駅前商店街。道路は幹線以外は未舗装。穴だらけで、急カーブの山道、断崖絶壁にもガードレール、カーブミラーすらない。

来年の戴冠式までに道路網整備を目指している様だが、驚くほどゆっくり整備中でした。

★

史跡や景勝地の様な、観光客向けの見所や設備がある訳でなく、物売りも居ない。街一番のホテルでも、設備は最小限のものしかない。

到る所に寺院がある。別格は標高3,100mに有る聖タクツァン僧院。500mの垂直に切り立った絶壁にへばり付く。こんな所で修行する僧は、まるで仙人。2,500mから徒歩で僧院を目指し、女房は登頂しましたが、私は2,800mでダウン(男の面目丸つぶれ)。

★

現地の方の常食は赤米で、おかずはとにかく辛い。(トウガラシを野菜として食べている)が、観光客にはその口に合わせてソフトに調理。

シーズンゆえ、マツタケが食べ放題。調理法は、オープンで蒸し焼きにするだけで、一寸勿体無い。10年分のマツタケを食べた思いです。

★

自然との共生が当たり前のブータンは、物があふれ、物質的な繁栄を競い合い、車やスーパー、コンビニがないと生きて行けない私達と大きく違う。

どこか文明社会から取り残された様な、手付かずの美しい自然と、自給自足の伝統的生活文化を守る姿、ゆっくり時が過ぎて行く素朴な田園風景は、何となく「懐かしさ」を感じさせる旅でした。

## 42年振り、エジプト・シナイ半島縦断の旅

旅の始めに：

昨年の10月、幸運にも10人の仲間とエジプトのシナイ半島を旅することが出来た。

シナイ半島は旧約聖書、「出エジプト記」の歴史的舞台となったところで、預言者モーセが最初にエホバ(神)と出会い、エジプトのファラオの圧制からイスラエルの民を救出すべく命じられた場所であり(出エジプト記3章—1~10節)、ついに紅海を渡る脱出劇を敢行。その後40年に亘って約束の地カナン(現在のパレスチナ)を目指して放浪の旅を続けたモーセゆかりの地でもある。私は過去通算6年間のエジプト滞在中で、観光地と言われるところは殆ど見たと自負しているが、このシナイ半島だけは見ることが出来なかった心残りの地でもあった。

過去の経緯：

私が最初にエジプトを訪問したのは、今から42年

樋口 美作(昭和37法)

前の1965年の3月で、エジプト政府の招聘でカイロのアズハル大学に留学した時であった。当時エジプトはナセル大統領の主導するアラブ社会主義の国家体制で、国名もアラブ連合共和国と呼び、イスラエルとは一触即発の戦争状態であった。彼らの合言葉は「イスラエルを地中海に追い落とす」と言うもので、それは一般大衆まで浸透していた。シナイ半島の東部はアカバ湾(ヨルダン)から地中海にかけてイスラエルとの国境線が延びており、常に厳しい警戒態勢がしかれ、立ち入るには特別の理由が無い限り不可能なことだった。

そうした中東情勢の中で、1967年には第3次中東戦争が勃発し、この地は凄惨な戦場と化した。そしてついにエジプトは、そのシナイ半島全域をイスラエルに占領されてしまったのである。これで私のシナイ半島への思いも遠いものとなってしまった。



しかし、その後1979年になるとエジプトの故サダト大統領はイスラエルとの単独講和を締結、シナイ半島は再度エジプトの領土として返還されたのである。それは同時に私にとってシナイ半島への夢が復活したことでもあった。

預言者モーセが40年間、イスラエルの民の我侷や傲慢さに苦悩しながら放浪した世界を一度歩いてみたい、この気持ちはその後もずっと私の心に残っていた。従って今回の旅は42年振りに実現した念願の旅であった。

スエズ運河：

カイロに2泊し、いよいよシナイ半島への出発である。一旦スエズまで行き、そこから地下道を通って運河を渡り、セント・カテリーナまでは392\*。丸々一日のバスの旅である。それなりの思いを胸にカイロを出発、約2時間でスエズ運河に到達した。

(1)

数千年前、モーセの導きでファラオの迫害を逃れ、エジプトを脱出することが出来たイスラエルの民が、最初に遭遇した難局がこの地であった。

来た道を振り返って見ると、ファラオの軍勢が彼らを抹殺せんと追ってくる。さあ大変だ、イスラエルの民はパニック状態に陥ってしまった。「モーセどうする、俺達は皆殺しだ。こんなことになるなら奴隷でもファラオの言いなりに生活していた方が良かったのに。モーセどうしてくれる。」

モーセは神に祈った。そして神の声に従い杖を紅海（現在のスエズ湾と思われる）に差し伸べたという。するとどうであろうか。強風が巻き起こり、海が割れてその両端は海水の壁となったのである。イスラエルの民は我先にとその壁の間を歩いて渡り切ることができた。ファラオの軍勢もその後を追ったが、水の壁はたちまちにして崩れ、軍勢と全てのもは飲みこまれてしまったという。間一髪でイスラエルの民を救ったモーセの奇跡である。（出エジプト記14章-21~29節）。

このことはイスラームの啓典クルアーンにもある。「われはあなた方の為に海を分け、あなた方を救い、あなた方が見ている前で、ファラアウンの一族を溺

れさせた時のことを思い起こせ」（クルアーン2章50節）。

私は車で地下トンネルを抜けながら、これは正に現代人のなせる奇跡ではないか、そんな気持ちで運河の底を越えた。

越えた先には真っ青な運河が遠くに見られ、大型コンテナ船がゆっくりと航行していた。さらに遠く、右手の紅海よりには石油採掘の灯が見えた。エジプトは今や石油産出の国なのである。

広がる荒野に見る史跡：

茶褐色の半島を走るバスに身をゆだね、延々と広がる荒野に目をやりながら、モーセたちは如何に放浪の旅を続けたのだろうか。水や、食料を求めて天幕を張り、「唯一の神を信じれば、神は我らを見捨てることは無い」、これが神とイスラエルの民との契約である。

しかし民衆は気まぐれで、水が枯渇すれば、「おいモーセどうしてくれる」。食料が欠乏すれば、「もうだめだ、こんなことになるならエジプトにいたほうが良かった」とモーセを非難し彼を悩ました。

さらに紅海にそって南下すると、灌木の茂った場所があった。メラと呼ばれた土地であるが今は「モーセの泉」と呼ばれている。かつてイスラエルの民達は、紅海を発ってシュルの荒野には入り、3日間水を求めてさ迷ったと言われている。そしてやっと見つけた泉である。乾きに飢えた彼らはきっと水を求めて殺到したことだろう。ところが水を口にした群衆は言った、「冗談じゃない、こんな苦い水など飲めやしない、モーセ何とかしてくれ」。

またもやモーセに難癖をつける彼らだった。モーセは静かに祈った。

(2)

そして彼は木の枝を取ってそれを泉の中に投げ入れた。するとどうだろう、苦かった水は甘い水に変わったと言うのである。（出エジプト記、15章-22~26節）

神の声を聞くモーセ：

「腹が減った、腹が減った。モーセもう歩けない。ああ、食べ物が欲しい、あの豊かだった緑のエジブ

トが羨ましい。このままでは俺達は死んでしまうぞ」。またしてもモーセを悩ます群集である。

するとその不平不満の声を聞いた神はモーセに言った。「今われはお前たちに天からパンを降らせる。お前たちは夕方には肉を食べ、朝にはパンに満ち足りるであろう」と。

こうして夕方には鶉（ウズラ）がやってきて宿営を覆うようになり、朝には宿営の周りに露の層が生じ、やがてその露が蒸発したあとを見ると、荒野の表面には薄い煎餅みたいなものができていたという。これはマンナと呼ばれ、以後40年間食することになる。

（出エジプト記、16章-4～14節）。

この辺の経緯は、啓典クルアーンにも簡潔に述べられている。「イスラエルの子孫よ、われはお前たちと約束を結び、マンナとウズラを下した」（クルアーン20章-80節）。

同行したガイドのモハメッド君は、「マンナとはこんな味のものだった」と言って、固い豆みtainなものを見せてくれた。噛んでみると、なるほどほんのりと甘いような味がした。

しかし実際に我々が見た井戸には水は無く、とても旧約聖書の世界のものとは思えないものであった。それは最近のシナイ半島には工業団地が建設されたり、観光開発が盛んであるため、地下水の水位が下がったためだとも言われている。

シナイ半島の魅力：

いつもながら道草の多い旅で時間を費やしてしまい、宿泊の予定地、セント・カテリーナに到着した時はもう暗くなっていた。途中のバスから眺める風景は、シナイ半島の山々が薄暗くなった空にただ黒い輪郭を見せるだけであったが、その上に月が薄く懸かり、その光景には何も言う言葉は無かった。

シナイ半島は、前述したように預言者モーセが、神と最初に出会った場所であり、また神からの啓示「十戒」を授かったといわれる「シナイ山」（モーセの山）標高2,208mがある。そしてその山頂で日の出を見ることは、数あるエジプト観光の魅力の一つなのである。

また山麓には4世紀から存続する「セント・カテリーナ修道院」があり、その内部にはモーセが最初に神と出会った時の導きとなった「燃える柴の木」や、6世紀にローマ皇帝ユスティニアヌスによって建てられた「礼拝堂」など、歴史的に貴重な建築物がある。

（3）

シナイ山登頂：

午前二時起床、この旅のハイライトでもあるシナイ山登山である。山頂は寒くて防寒の身支度が必要だとは聞いていた。標高2,208mと言うが、自分達が今いるこの宿泊地も1,000m以上ある山の麓である。直接歩いて登る人もいるが、それは若い人に任せて、我々は八合目と言われる地点まで駱駝で登ることにしていた。

所要時間は約2時間で隊列を組んで登るのだが、何しろ大勢の登山客が、皆われ



先にと登っていくので自分達だけの隊列を組むのは難しく、おまけにその日は月も無く周囲は暗くて誰が誰だか判別するのも難しかった。「おーい、大丈夫か?」「大丈夫よ。」「おーい、何処だ?」「ここよ」そんな夫婦の睦ましい声を掛け合いながら登っていく。

駱駝には馬子が付いているので安心ではあるが、ゆっくりゆっくり揺られていると睡魔が襲ってくる。だからお互いに声を掛け合うことは、その意味でも大切なことに思われた。

山頂で：

「駱駝はここまでだ」、八合目に到着した。馬子の掛け声で駱駝は前足からたたんで座るので注意しないと前に倒れそうになる。未だ周囲は暗い、一息入れて方向感覚もないまま一本の登山道に入る。ここからは自分の体力と足に頼る他はない。石段になっているので若い人にはさして問題はないだろうが、



我々にとっては歩幅も違うので時間もかかる。説明書の所要時間にも20~40分と幅があるのが理解できる。

山頂はそれほど寒くは無かった。それは風があまり強くなかったからであろう。既に大勢の登山客いて、日の出を見るのに良い場所は殆ど占拠されていた。毛布に包まってじっと太陽の登る方向を見つめているカップル達である。しかし生憎この日は雲も厚く、人々が驚嘆するような日の出は期待できそうもなかった。雲の厚いのは風の無いのがその証拠だったと思う。

日の出：

六時前になると薄い雲間に赤味が差し、日の出が実感して取れた。誰もがカメラを向けて何枚も何枚も撮った。

太陽が高くなるに従って、眼下に広がる草木の1本も無い山々が赤褐色に、あるいはちょっとした紫色に変化する光景は、「40日40夜モーセはこの山を歩き、何処で啓示を受けたのだろうか」そんな思いが自然と湧いてくる感動的なものであった。

私もデジカメと旧式の重いニコンカメラ、それに望遠レンズまで持参したのだが、所詮は素人である、帰国して見た写真にもこれと言った感動的な作品は無く、あのカメラの重さに苦しんだ登山中のことが思い出され、あんなものまで持参して、と後悔した。

下山は殆どの方が歩いて下る。この時になって始めて登ってきた道がどんな道であったかに納得する。

(4)

仲間がまとまって歩くので話も弾むが、それでも足元に注意しなければならないので下を向いて歩くことになる。今にして思えば、下りも駱駝を利用すればもっと眺望の美しさも楽しめたし、写真撮影も調子よくいったのではないかと思う。

セント・カテリーナ修道院：



セント・カテリーナ修道院は開放時間が短く、下山してすぐ見学する

ことになるので何か慌しい。ここも大勢の人で混雑しておりイメージしていた雰囲気とは違っていた。

内部は薄暗く、6世紀以降の礼拝堂はその威容性は充分感じられるが、じっくり見ることは出来ないし写真撮影も禁止されている。

内庭に出ると人だかりのしている一角があった。何だろうとガイドに聞くと、そこにある茂った



植物が、モーセが最初に神と出会ったことを象徴する「燃える柴の木」だという。細い柴の枝が垂れ下がっているが、ご利益を願うのだろうか、多くの方が手を伸ばしてはその枝に触れ、祈る姿があった。どこの国の人であっても、旧約聖書に関わる人達にとっては精神的に癒され、また高揚する場所であるに違いない。

旅の終わりに：

今回の旅行の目玉であったシナイ山登山も無事果たすことができ、誰もがほっとした気持ちで朝食のテーブルに着いた。そしてお茶を飲みながらも、思いは早や次の目的地に移っていくのであった。しかしそこはもう旧約聖書やモーセの世界ではない。

シナイ半島の先端は「シャルムエルシェーク」、紅海に臨むエジプト最大の保養地である。冬期には、ヨーロッパ各地から太陽を求めて大勢の人達がチャーター便で押し寄せてくるダイバーのメッカでもある。

セント・カテリーナからバスで約三時間かかるこの保養地はカイロから772kmある。

最近では特に中東和平問題やその他の国際会議に利用され、各国の首脳が顔を合わせる国際政治の場所でもある。

紀元前の世界から最新リゾートの地まで、さまざまなエジプトの魅力の側面を見た旅であった。そしてこの旅は、私が42年前に想像した旅とは全く異質の旅であった。(完)

## 我らの同好会活動

### 囲碁将棋

早川 政夫 (昭30 商)

#### 平成19年度の活動報告

##### 1、月例会

毎月第4日曜日の午後1時から6時まで、菊野台福祉センターで、毎回数名の参加者を得て行なわれた。

##### 2、例大会

###### ○ 新春囲碁大会

1月28日(日) 於菊野台福祉センター、

参加者 20名

優勝者 A組 柿内8段、B組 椎原4段、  
C組 新井2級

###### ○ 夏季囲碁大会

7月22日(日) 於菊野台福祉センター、

参加者 17名

優勝者 A組 芳賀6段、B組 飯島6段、  
C組 舞木初段

###### ○ 新春将棋大会

2月25日(日) 於菊野台福祉センター、

参加者 4名

優勝者 村上1級

##### 3、特別イベント

###### ○ 囲碁忘年宿泊研修プラン

12月8～9日(土日) 於ウエルサンピ  
ア多摩、参加者 8名

##### 4、対外交流会

###### ○ 第7回オール早稲田囲碁祭

6月9日(土) 於日本棋院市谷本院、

参加者 澤井、大谷、床波、

塩澤、椎原、早川 以上6名(敬称、段  
級位略)

###### ○ 第2回調布・稲城・多摩稲門会囲碁交流 会

4月7日(土) 於京王クラブ、参加者

大谷、塩澤、椎原、濁川、早川 以上5

名(敬称、段級位略)

###### ○ 第3回調布・稲城・多摩稲門会囲碁交流 会

9月23日(日) 於菊野台福祉センター、

参加者 澤井、大谷、床波、

塩澤、箕輪、川住、早川 以上7名(敬  
称、段級位略)



#### 平成20年度の活動計画

月例会、恒例大会、宿泊研修、及びオール早稲田囲碁祭への参加は引き続き実行の予定。

一昨年立ち上げた近隣稲門会(調布・多摩・稲城)囲碁交流会は、稲城→多摩→調布と持ち回り主催して来たが次会は稲城主催につきこれも参加の予定。

#### 囲碁将棋同好会への誘い

現在会員は26名で毎月第4日曜日の午後1時から午後5時まで、菊野台福祉センター(京王線柴崎駅下車、甲州街道を渡り、徒歩数分)で例会を行っております。

その他春夏の例大会のほか宿泊研修やオール早稲田囲碁祭等対外交流会も企画しております。高段者から中級、初級まで多士済々のメンバーで和気藹々とやっております。

入会金、会費とも無料、大会費用等はその都度清算方式です。

下記の連絡先へ一度お電話下さい。お待ちしております。

連絡先	早川 政夫	042-487-9610
"	塩澤 誠	042-484-1505
"	大谷 暢廣	042-481-0202

## カラオケ同好会

小笠原 忠八郎 (昭40 商)

早いもので又一年が経ちました。

経済が上昇ムードと思われましたが、政治不安に伴ってアメリカ経済の下落という年になりました。

調布稲門会のカラオケ同好会も回数を増し、景気づけをしようと思いつながら、数回しか実施できなくて残念に思っています。

二月の新年会、五月の総会、八月の暑気払いと、三回しか実施していません。

参加メンバーを見ますと、新しい方が2~3名参加いただき有り難く思っています。出来れば忘年会も入れて年5回は実施したいと思います。

個人的にはたまに2~3名の方と歌うこともあります。この事はカラオケ同好会の世話人をやらせて頂いているおかげと感謝して居ります。

本年は新曲を歌う会をコーチを交え実施したいと思っております。お誘いの声をかけますので、宜しくお願いいたします。

## 硬式テニス

村上 勉 (昭42 教育)

硬式テニスのリーダーを引き受けておおよぼ3年、三年経過しました。

苦節、石の上にも三年ですが、恐らくは在職したトヨタで取り組んだ仕事の何倍も努力、研鑽を重ねたのではないかと思います。

その功あつてか同好会もようやく軌道に乗りにかけたの感があります。

今年は新規に正会員2名、準会員5名(内女性会員4名)が入会され、技術も初心者を超え中級の下くらいのレベルに上達してきました。

特に、「腕」のたつ女性数名の参加がレベルアップの要因と思われていますが、もう一段の技術力の向上を目指したいと考えています。

例会は市営深大寺コート、調布中学が主で月4~5回、2時間200円が会費、時に4時間の日もありません。

年中行事として年2回程度の合宿、新年会、忘年会、他稲門会との交流戦等で楽しくプレイしています。関心のある方はお気軽に参加してください。

## ゴルフ同好会

香山 弘之 (昭和35年 政経)

今年の抱負は前年同様参加者を増やそうということです。開催曜日は平日、場所は交通の便が良く近場で、カートつきしかも割安の所を選ぶつもりです。賞も出来るだけ多くの方にお渡しできるよう工夫してみます。初めての方も気軽にご参加ください。

現在の登録メンバー30名前後ですが、どうしても体調不良で不参加の方が増えていますので10名前後のご参加ということになります。基本的には春・秋のゴルフシーズンに2回ずつ計4回のコンペを開催しております。

2007年度は以下の通り平日に行いました。

4月16日(月) 川崎国際 8名 稲門会単独  
優勝五十嵐氏

5月17日(木) 八王子 22名 残念ながら  
現地集合後雨天中止

9月25日(火) 大月 11名 稲門会単独  
優勝安松氏

11月15日(木) 八王子 20名 調布三田会  
と合同・稲門8名

優勝 関氏 (三田会) ベスグロ優勝

また10月22日には調布市民ゴルフが桜ヶ丘C.C.を貸切で行われ有志で参加しチャリティーに協力しました。

2008年の計画は、5月15日(木)調布三田会との合同コンペ、6月初旬に稲門会単独のコンペを予定しております。初参加大歓迎です。

尚、本年より安松氏と2人で会を運営して参りますのでよろしくお願ひします。

## 社交ダンス同好会

元木 勇 (昭37 政経)

平成14年8月25日(日)調布市文化会館「たづくり」において、社交ダンス部が発足してから、早くも6年目に入りました。

現在は、椎原孝子先生を中心として、熱心な指導の下で、会員の方は大変上手になり、皆が楽しく、レッスンに励んでいます。「継続は力なり」です。

社交ダンスは、スポーツに芸術的要素を加味し、①年齢に関係なく楽しめる趣味として②美容と健康を増進するものとして③生涯学習として④地域社会に貢献するものとして、今多くの方々が踊っています。例会は、土曜日・日曜の午後を中心に平日の夜間を加えて、会場の都合により、月に3~4回行っています。

社交ダンスに全く経験のない方でも、安心してついていかれるように、工夫された講習となっています。ぜひともご参加ください。また稲門会関係以外の方も一緒に誘ってください。大歓迎でお待ちしております。

## 太極拳同好会

中野 完二 (昭35 文)

太極拳同好会は、今年2008年3月23日(日)に設立25周年記念大会を楊 慧先生らご来賓をお迎えして、調布総合体育館小体育室で開催致します。記念誌も発行しようとして準備中です。

国領の保育園をお借りして始まった太極拳同好会の活動も、毎週稽古を重ねて25年を迎えると思うと感慨深いものがございます。

今は、調布総合体育館小体育室で毎週日曜日(5週目は原則としてお休み)午前10時~11時半に稲門会会員、家族、調布市民はもちろん三鷹市、狛江市など近隣の方々と、「健康・友好・平和」を目指して50名ほどで楽しく稽古をしています。

昨年は、第10回太極拳祭り(4月28日)、昭和記念公園での東京都支部西地域太極拳の集い(9月15日)、味の素スタジアムでの調布市民スポーツまつり(10月8日)、2007太極拳全国交流会(11月10日)

などに参加。

今年は、25周年大会のほか大11回太極拳祭り(4月)、第5回東京都大会(4月18日東京体育館メインアリーナ)が予定されています。

楊 名時太極拳師範

日本健康太極拳協会副理事長  
東京都支部長

## 麻雀同好会

濁川 (昭42 理工)

麻雀同好会の最近の活動をご報告いたします。

昨年は2回開催を計画し、1回は3月3日(土)開催、2回目は初秋の開催を予定しておりましたが、小生、雑用に追われ日程が取れませんでした。会員皆様には大変ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

今年は2月2日に開催します。皆様多数の参加をお願い致します。

現在会員は、最近の新規加入者を含めて36名で活動しております。例会は半荘4回の対局で行っており、優勝者は無論、全員に商品がわたるようにしております。

入会希望の方は、いつでも幹事に申し込んで下さい。

## ワングル同好会

天野凡子 (昭56 文)

年2回春と秋に気軽に出掛けられる近隣の行楽スポットを楽しく散策しています。名所旧跡巡りや自然とのふれあい、おいしいもの探索等、楽しみ方は自由自在です。

直近では11月24日にワングルの名にふさわしく?高尾山ハイキングを催行し、18名が参加しました。1号路(表参道コース)は道も舗装されていて歩きやすく、それぞれ会話を楽しみながら、高尾山薬王院を経て山頂へ。折りしも話題の「ミシュラン」効果(高尾山は三ツ星観光地指定!)もあってか、山頂は大賑わいでした。近くでお弁当をいただいたり、茶店で名物のおそばを食したり、お昼のひと時を過ごしてから早めに下山。紅葉がとても美しく、

お天気にも恵まれ、爽やかな秋を満喫できた1日でした。

これからもいろいろなところへ出掛けて行きたいと思っています。ご家族の参加も大歓迎です。ご都合の付く時にご自由にご参加ください。「今度はあそこへ行きたい！」等のリクエストもお待ちしております。

### 食・歩会の活動

山田 和子(昭49 文)

本年度に準会員2名を迎え、会員数は20名になりました。

春の集いは4月22日(日)、武相荘(旧白洲邸)見学と地元スリジェ(仏料理)での会食(参加者10名)、秋は、11月18日(日)、目黒雅叙園内の百

段階段見学と東京チャイニーズ旬遊紀(中華料理)での会食(参加者12名)でした。

武相荘は、折からの白洲次郎ブームということで、混み具合が気になったのですが、それ程でもなく、ゆったりと、白洲次郎・正子夫妻のこだわりのある生活を垣間見ることが出来ました。その後調布に戻り会食した仏料理も美味、春の集いは近場での気楽な“大人の遠足”でした。

「千と千尋の神隠し」に登場する湯屋のモデルとなった百段階段(それに接する6部屋は登録有形文化財)は贅を尽くした昭和初期の絢爛豪華な建造物、一見の価値がありました。見学の後は円卓を囲み、中華のコース料理、更に時間の許す限り、館内を自由見学しました。

2月には山田宅にて茶話会を予定しております。

### 2007年の活動概要

- 2/18: 新年会 調布市文化会館「たづくり」で開催、45名出席。  
会報「紺碧」第25号を発行。今回から紙面をパソコンにより編集、横書き2段 A4サイズに変更。印刷は地元の身障害者参加の福祉作業所に依頼する。
- 5/19: 第26回総会 調布市文化会館「たづくり」会員57名 来賓28名出席 役員再選。
- 6月 会報第26号発行 会報発行を年2回とする。
- 9/8: 早稲田大学創立125周年記念事業協力 稲門会三多摩支部主催 映画「ゼロからの風」上映 府中グリーンプラザ けやきホール 満員の盛況。
- 10/21: 早稲田大学創立125周年記念式典  
チャリティーウォーク 最終中継点 調布～大隈講堂コースに会員2名参加。
- 12/2: 調布市福祉バザー参加 昨年並みの実績をあげる。(↓写真は市役所前広場 福祉バザー会場)



2007年は手作り会報1号(通算第25号)の仕事で始まった。パソコン常用の時代になり、これを使わない手はないと取り組んだ。

普段余り応用したことのないソフトを使いこなすのは大変なことだが、試行錯誤、参考図書やパソコンに通じる会員の協力を得て、何とか形をなす会報紙作りに努めた。

原稿は従来どおり会員各位にお願いし協力を得る。手作りのためフォーマットが出来れば、記事の訂正、校正など細かい調整は如何様にも可能で、印刷直前まで対応できる大きなメリットがある。

印刷は身体障害者が参加している地元福祉作業所に依頼、福祉事業との触れ合いにも心掛ける。

また年2回の会報発行を決め、6月に第26号を届ける。顔合わせの少ない会員相互の意思疎通を、少しでも深める上で役立てたい。

広く会員各位に投稿を呼びかけ、回を重ねる毎に会員を結ぶ会報としての充実を願っている。

昨年は早稲田大学創立125周年を祝う記念事業最終年度であり、寄付金の支援活動に会をあげて取り組んだ。大学当局の校友への寄付要請に呼応し、調

布在住の校友には幹事が手分けし協力願いに歩いた。

会員、校友の理解と協力により、当初の予定を上回る実績を上げる結果となった。

また三多摩支部西ブロックの副会長支部として、映画「ゼロからの風」上映に府中校友会に協力、上映当日は満員の入りで、大きな反響をえた。

此の映画は飲酒運転による交通事故を厳しく戒める法改正の切っ掛けとなり、新春の福岡地裁の判決(福岡市で06年に飲酒運転により起きた追突事故。追突された車は海に転落、一家5人の内、幼児3人が亡くなった)が注目された。早稲田新入生の交通事故死が、法改正を促す動機となるもので、その上映を推奨した。

12月初めに開催される調布市福祉バザーには、常連団体として参加、会員を通し提供頂いた物品を扱い、昨年並みの金額を福祉関係に寄贈した。

調布稲門会の出店は主婦の間で、伝統大学校友会としての信頼、好評を耳にしている。有り難い口コミにも支えられ売上に励む。

地下工事が進む調布駅が新しい顔になる日はまだ先だが、工事現場を覗いてみたい。

先にご案内致しました、新春の集いに会員皆さまのご出席をお待ちします。

## 平成20年 新年会

平成20年2月17日(日) 12時～

神楽坂 鳥茶屋

## 平成20年度 第28回 定例総会

平成20年5月17日(土) 調布市文化会館「たづくり」 12階 大会議場

## 調 布 稲 門 会 会 則

- 第 1 条 本会は調布稲門会と称し、事務所を調布市におく。
- 第 2 条 本会は会員相互の親睦を深めると共に、地域社会への貢献に務め、早稲田大学の発展に協力することを目的とする。
- 第 3 条 本会は調布市に在住、在職する早稲田大学の校友をもって組織する。  
-2 校友のファミリーは準会員になることができる。
- 第 4 条 本会に次の役員をおく。  
会長 1 名 副会長 若干名 幹事長 1 名 副幹事長 2 名  
幹事 若干名 監査 2 名  
-2 幹事の中に 渉外・会合・会員増強・総務・企画・会計・庶務・広報・バザーの担当幹事をおく。
- 第 5 条 役員は総会において会員中より選出する。  
-2 役員任期は 2 年とし、再選を妨げない。  
-3 前条 第 2 項の担当幹事は、会長が幹事の中から指名する。
- 第 6 条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。  
-2 副会長は、会長をたすけ、会長に事故あるときは会長の職務を代行する。  
-3 幹事長は幹事会を司会し、母校校友会、三多摩稲門会、友好団体との連絡に当たる。  
-4 副幹事長は幹事長を補佐し、会の総合的事業計画及び会務の執行について協議しこれを処理する。  
-5 監査は業務及び会計の監査を行う。
- 第 7 条 本会は総会の議決により名誉会長、顧問、相談役を置くことができる。
- 第 8 条 本会は、毎年一回定期総会を開催する。ただし、会長が必要であると認めた時、または、会員の過半数の要請ある時は臨時総会を開催することができる。  
-2 総会は会長が招集する。
- 第 9 条 本会の会員の年会費は 3 千円とする。  
-2 準会員の年会費は 1 千円とする。
- 第 10 条 本会の運営に功績のあったと認められる会員または準会員に対し、慶祝金または弔慰金を支給することができる。  
-2 慶祝金または弔慰金の支給については、会長・副会長・幹事長の合議とする。
- 第 11 条 本会の会計年度は 4 月に始まり、翌年 3 月に終わる。

付 則 この会則以外の必要事項は役員会で審議し、総会で決定する。



「戊 子」縁起 (つちのえ・ね) 歳

野村證券(株) 調布支店  
支店長 松下 明希子

初春から調布稲門会の会報誌「紺碧」に寄稿させていただき、栄誉を賜り、大変光栄に感じております。

私は現在、野村證券(株)調布支店の支店長を勤めさせていただいております。相場の世界におきましては縁起を担ぐことが往々にしてあり、また特に年頭におきましては、その年の干支で1年の相場の行く末を占ったりもいたします。

そこで、今回は今年の干支である「戊 子」(つちのえ・ね) 歳に関しまして少し書かせていただきたいと思います。

中国の古典によれば、「戊」は「茂」に通じ「万物が繁茂スル形」とされ。「剪定、枝おろしを怠るな」との意味もあると説かれます。また「子」は「滋」に通じ「万物ノ下ニ発する形」。さらに「子」は十二支の首位にあり、陰極まって陽に転じ、原点に帰って再出発し、再び新たな生命力をもって成長して繁

栄すべき吉年とされます。

社会全体では、現状に油断せずに未来を見据えて改革という剪定を継続し、子孫繁栄の視点から原点に帰って教育の重要性を再認識する年になるのではないか。

投資の世界では、陰極まって陽に転じる字義こそ時間分散を活用する好機です。北京五輪に象徴される発展するアジアとの関係で、新たな生命力を持ち始めた日本の位置づけを踏まえ、国際分散投資と成長する日本企業の株式に投資をし、鼠算的に資産を増やすことができれば、充実した1年になることと思っております。

文末になりましたが、「子」歳にちなみ稲門会の皆様に大黒天の福をもたらす神の使いである鼠の幸が、数多降り注ぎますようにここからお祈り申し上げます。

<p>思いを力子にするを支える プロの技がここにあります 冠婚葬祭・出張料理・パーティ料理・会席料理</p> <p><b>アジサイワールド(株)</b></p> <p>電話 〇二〇・五五五・五八五 FAX 〇四二・四九八・七八八 http://www.ajisai.co.jp</p>	<p><b>ギフト</b></p> <p><b>京王百貨店調布外商営業所</b></p> <p>住所 〒182-0024 東京都調布市布田一・四五・一 電話 〇四二・四八八・五七六 FAX 〇四二・四八七・九〇一</p>	<p><b>桜田倶楽部</b></p> <p>東京テニスカレッジ</p> <p>会長 <b>秋山 一</b></p> <p>住所 〒182-0017 昭和22政経卒 電話 〇四二・四八二・二〇九</p>	<p>深大寺そば 創業文久年間 二宴会・俳句会・御法事</p> <p><b>元祖 嶋田家</b></p> <p>住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町五・十二・十 電話 〇四二・四八二・三五七八 FAX 〇四二・四九九・六六五五</p>	<p>不動産賃貸 <b>中村不動産管理株式会社</b></p> <p>代表取締役 <b>中村 俊一</b></p> <p>住所 〒182-0035 東京都調布市上石原一・一〇・一 電話 〇四二・四八二・二〇三三</p> <p>リフォーム 外壁塗装・屋根塗装 <b>株式会社住まいるスズキ</b></p> <p>代表取締役 <b>鈴木 光孝</b></p> <p>〒182-0023 東京都調布市染地三・五・六五 電話 〇二〇・〇八〇・二四二</p>	<p>早稲田大学商議員 <b>早稲田大学調布稲門会副会長</b></p> <p><b>元 木 勇</b></p> <p>自宅 〒182-0003 調布市若葉町二・二二・一〇 電話 〇三・三三〇〇・四五四(代) FAX 〇三・三三〇〇・八七二八</p>
<p><b>野村證券株式会社調布支店</b></p> <p>支店長 <b>松下 明希子</b></p> <p>住所 〒182-0024 東京都調布市布田一・三六・九 (京王線調布駅北口) 電話 〇四二・四九八・六〇一(代) FAX 〇四二・四九八・六〇九</p>	<p><b>林建設株式会社</b></p> <p>取締役会長 <b>林 和男</b> 取締役社長 <b>林 清一</b></p> <p>住所 〒182-8512 東京都調布市小島町二・五六・三 電話 〇四二・四八六・二二一 FAX 〇四二・四八六・二二〇</p>	<p><b>堀紙管株式会社</b></p> <p>住所 〒182-0034 東京都調布市下石原三・六二・一 電話 〇四二・四八七・二二五(代) FAX 〇四二・四八七・二二五四</p>	<p>新しい食文化を創る <b>株式会社山田屋本店</b></p> <p>代表取締役社長 <b>秋 沢 淳雄</b></p> <p>住所 〒182-0024 東京都調布市布田三・一・一 電話 〇四二・四八二・四八五 FAX 〇四二・四八二・四五七二</p>	<p>早稲田大学商議員 <b>早稲田大学調布稲門会会長</b></p> <p><b>河野 瑠美</b></p> <p>自宅 〒182-0013 調布市深大寺南町四・三九・三 電話 〇四二・四八八・六七八一 FAX 〇四二・四八八・六七八一</p>	